

合併や統合を巡り地域エゴが露呈し、対立や衝突が起こるのは世の常。肝心なのはその時、どう民主主義が機能するかだ◆昭和の大合併では、鳥取県中部の東郷、松崎両村が、それぞれ

の名前を新町名にすべきだと主張し対立。当事者では決められず、当時の西尾愛治知事の斡旋で1951年に「東郷松崎町」が誕生した。その2年後に花見、舎人両村と合併し、結局「東郷町」となった◆平成の大合併も大騒動だった。兵庫県浜坂、温泉両町では、一度合併協議会で「温泉町」と決まったが、一貫して新町名を求めてきた浜坂町議会が反発。町長選にまで発展し、最後は「名称は新温泉町とする。ただし、合併後検討する」という異例のただし書きを加えた決着となった◆もめにもめたのは、倉吉市の統合小の校名問題も同じ。「成徳」の修正動議を提案した議員は、開校後に校名を考え直すことも検討できると説明したが、これまでの議論の積み重ねは何だったのかという疑問が残る◆小学校の社会科では、国や地方公共団体の政治が国民生活に果たす役割を学ぶ。小学校はいわば民主主義教育の入り口。互いの意見や立場の違いを理解し、手続きを踏みながら、最後はどんな落とし所を見つけたか。大人が範を示さなければならぬ。(北)

倉吉市の成徳小と灘手小が統合する新しい小学校の名称が成徳に決定し、混乱を引き起こしている。

新校名については、昨年の9月議会で統合準備委員会が選定した至誠が決定された。しかし、選定経過に疑義があるとして約5千人の署名による住民直接請求が行われた。市長は「至誠の選定方法に問題はない」としつつも、12月議会に至誠の条例廃止を提案し可決

された。多くの市民はこぼれたのはおかしい「公立学校に理念の校名を入れるべきでない」「戦争推進に使用された」など反対の声が多く聞こえていた。至誠について分かった市長の責任は大きい。今一番急がれるのは灘手地区への配慮だ。市長は「公立校に至誠の名称は適さない」と明言し、速やかに明倫地区も含めた校名検討委員会を立ち上げ、新しい校名を決定してほしい。(やま梨)

打吹おろし

と校長の責任
と市長の責任

委員会は市長の見解を踏まえ、打吹至誠を決定し、1月の臨時議会で再び否決された。至誠については「応募1人の至誠が選

定された。しかし、選定経過に疑義があるとして約5千人の署名による住民直接請求が行われた。市長は「至誠の選定方法に問題はない」としつつも、12月議会に至誠の条例廃止を提案し可決

された。多くの市民はこぼれたのはおかしい「公立学校に理念の校名を入れるべきでない」「戦争推進に使用された」など反対の声が多く聞こえていた。至誠について分かった市長の責任は大きい。今一番急がれるのは灘手地区への配慮だ。市長は「公立校に至誠の名称は適さない」と明言し、速やかに明倫地区も含めた校名検討委員会を立ち上げ、新しい校名を決定してほしい。(やま梨)

は「公立校に至誠の名称は適さない」と明言し、速やかに明倫地区も含めた校名検討委員会を立ち上げ、新しい校名を決定してほしい。(やま梨)